



talk! talk! talk! タレント・スザンヌさん



タレント スザンヌさん

バラエティ番組から女優業、最近では地元・熊本のPR活動へと活躍の舞台を広げ、幅広い層から人気を集め続けているスザンヌさん。一昨年にNikonD80を購入し、本格的に写真を楽しんでいるという。一眼レフカメラを持ち、日々生活をする中で彼女に訪れた心境の変化。過去の記録としてだけでなく、現在の自分と未来の自分をつないでくれるものとして、スザンヌさんの写真との付き合い方や楽しみ方を語っていただきました。

プロフィール

1986年、熊本県生まれ。10代後半から福岡を中心にタレント活動を開始。2007年5月には「クイズ!ヘキサゴンII」(フジテレビ)の出演で一気にブレイクし、9月に同番組の企画ユニット「Pabo」のメンバーとしてCDデビューも果たす。2008年にドラマ「無理な恋愛」(フジテレビ系)で女優としても始動し、2009年公開の映画「いぬばか」(ヨリコ ジュン監督)初めでの主演を務める。また2008年には、全国に向けて地元・熊本のPR活動を展開する熊本県宣伝部長に就任し、精力的に活動中。主な出演番組に「PON!」(日本テレビ系)「フリフリ song Book」(フジテレビONE/TWO)「クイズ!ヘキサゴンII」(フジテレビ系)「さんまのスーパーからくりTV」「アッコにおまかせ!」(TBS系)「ロンドンハーツ」(テレビ朝日系)など。2010年4月21日に、初主演映画「いぬばか」のDVDが発売決定。

Beginning 出会い

写真撮影への好奇心は登山がきっかけ

一昨年に一眼レフカメラを購入されたとお聞きしましたが、もともと写真には興味があったのでしょうか?

はい、それまでもコンパクトカメラで人の顔を撮るのが好きだったんです。一眼レフカメラを持ってから、風景の写真を撮るのもすごく楽しくなりました。

購入しようと思ったきっかけを教えてください。

お仕事でハワイにロケに行くことになったときです。ハレアカラという山に登ることになっていて、その頂上からの眺めが素晴らしいと聞いたんです。山の頂上に立つと、太陽が目の前にあって雲が足元に沈んでいるように見えるということで、その景色を撮りたい!と思ったのが、本格的に写真を撮り始めるきっかけでした。

一眼レフカメラを初めて使った時はご自分一人でうまく使いこなせましたか?

やはり初めは戸惑うこともあって、ハレアカラと一緒に登ったプロのフォトグラファーさんに、絞りを調整してもらうなどして教えてもらいながら撮影しましたね。山の頂上では、夕日が沈む瞬間を撮ることができました。

購入する際に、どの機種を買うか迷ったり、カメラに対する疑問点などはありませんでしたか?

一眼レフカメラについて、最初は本当に何も分からなかったんです。自分で操作してじっくり決めてみたかったんですが、あまり時間もなくて店頭で途方に暮れて見ていたとき、店員さんがNikonD80を熱く勧めてくれたんです。「このカメラはお手頃なお値段の割に機能が充実していて、使い勝手が良いんですよ」って。店員さんが撮った写真をスライドショーを用いて操作の手本を見せてくれたんですが、画質の高さと使い勝手の良さを感じてしまいました。あのときあの店員さんのプッシュがなかったら、違うものを選んでいたらかも(笑)。

Pleasure 楽しみ

一眼レフカメラが、写真に対する心境の変化を生んだ

本格的に撮影をされるようになって、いかがですか?

カメラを持っているだけでテンションが上がりました。カバンからチラッと見せるようにして、「一眼レフ持ってるんです!」とさりげなくアピールしたくなりました(笑)。首にかけるスタイルもお気に入りなんです。一眼レフカメラを持っているのって、ファッションスタイル的にもすごくかっこいいと思うんです。もちろん見た目だけではなく、機能に関しても、コンパクトカメラにはないものが充実していますし、画質もすごくキレイで鮮明に写るので、写真を撮るたびにウキウキしています。

ちなみに今日は一眼レフカメラはお持ちですか?

はい、いつもカメラがすっぽり入って、サイズがちょうどいいカメラバッグに入れて持ち歩いています。PCにつなぐコードなども色々入れているんですよ。

華奢なスザンヌさんにとっては、一眼レフカメラは結構重いのでは?なんて心配してしまいますが.....

そうですね、確かに重いと感じることもありますけど、撮っているうちに楽しくて忘れてしまいます!仕事に一眼レフカメラを持って行く際は、基本マネージャーさんに預けていて、空き時間のときに渡してもらって撮影をしているんです。私の代わりにマネージャーさんが持っている時間の方が長いので、そのおかげで重さを感じない、ということもあります(笑)。

先の質問では、一眼レフカメラがファッションの一部にもなり得るとのお話でしたが、機材のデザインに関して、こだわりはありますか?

意外だと思われがちなんですけど、D80のように黒くてゴツゴツしているベーシックなものが好きです。以前はコンパクトデジタルカメラにも沢山デコレーションを付けたりしてキラキラさせていましたが、今は落ち着いた雰囲気が好きですね。きっと大人になったんですよ(笑)。



コンパクトデジタルカメラと一眼レフカメラを比べて、写真を撮るときに自分の中で変わったことや、新たに意識するようになったことはありますか？

一眼レフカメラはコンパクトデジタルカメラと違って、カバンから瞬時に取り出せるものではないので、写真を撮るために外に出かけるようになりました。それまでは日常生活で何気なく撮影していましたが、本格的に写真を撮りに行こうと意識するようになったんです。

コンパクトデジタルカメラと使い分けることで、被写体に変化はありましたか？

一眼レフカメラを持ってからは、風景の写真を撮ることが増えました。海外にロケで出向く際には必ず持って行って、現地の自然の写真を撮るんです。特に海を撮るのはすごく好きなので、海外でも日本でもよく撮りに行くんですよ。

他には、たとえば人の後ろ姿とか。お父さんが子供をだっこしている場面や、ディズニーランドでカップルが肩組んでるところを後ろから撮ったり.....隠し撮り状態なんですけどね（笑）。そういった人と人の愛情がにじみ出ている場面は、私も見ていて微笑ましい気分になれるので、ついついシャッターを切ってしまう。自分にとって心が温かくなるようなとっておきの瞬間をとらえたいと思うようになりました。コンパクトデジタルカメラは、本当に毎日のたわいもない場面を撮る役割になっています。ブログに使うものが多いんですけど、たとえば街で見かけた変なモノなど、思わず笑ってしまうような写真です。特に意識はせず、力を抜いて何でも撮るといったスタイルです。

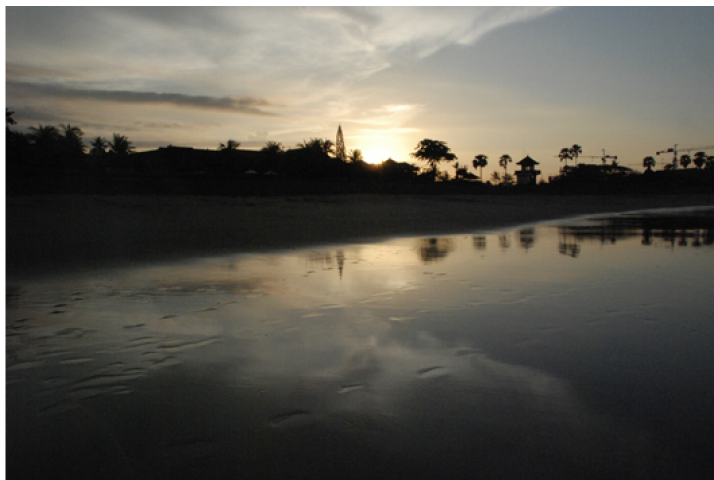
Photo's 作品紹介

スザンヌさんの心をときめかせた数々の風景









Future これから

未来に思いを馳せる仕掛けとしての写真

スザンヌさんは仕事において「撮られる側」ですが、「撮られる」感覚は小さい頃から好きだったんですか？

小さい頃は写真を撮られるのが面倒くさいと感じて、小・中学生の時は、家族写真を撮るのも億劫でした。でも大人になるにつれ、気づいたら楽しいと思えるようになっていたんです。今では、実家に帰ったときに私から積極的に家族に「写真撮ろうよ！」ってしていますね。

大人になって、家族と離れてみて初めて、ご自分にとっての写真のあり方を考えるようになったのですか？

はい。旅行の時に父さんが写真をすごく撮りたがるのを見て、私も写真の存在の重要性について考えるようになっていたんです。以前ならせっかく旅行に来てるんだから、もっと見て楽しめばいいのってよく思っていました。家族みんなで写るなら、撮影は誰かに頼まないといけないし、写真を撮るから「ハイ並んで」と言われるのが面倒くさかったんですね。でも、たとえ気乗りせずに撮ったとしても、家族みんなで写った写真は、見返した時に「この時こうだったよね」なんて会話を交わしたり、色々考えたりできるんですね。写真を見て、遠くにいる家族を気かけたり、感謝の気持ちがこみ上げたりするんです。

写真を見返すことで、その時の感覚を保ったり、新たに生まれる思いに気づくんですね。

シャッターを切って思い出を残して、また見返して……。撮る瞬間と、撮った後再びその瞬間に出会うとき、二度幸せな気持ちになれるのが、写真の魅力だと思うんです。写真に収めるその一瞬も楽しいんですけど、後になって「このときこんなこと考えてたな」、「コレは面白かったな」などと思いを巡らせながら見返すことも幸福感を味わえるんですね。思い出って頭の中の記憶だけじゃなくて、映像や写真によって、より一層強く残っていくものだと思うから。

写真で記録することによって、記憶を大切にしているんですね。

芸能界での仕事を始めてからの約3年半は、今までの人生の中で、一番頑張ったなと思える期間なんです。だからいつか、今自分が撮っている色々な写真を見て「あの時頑張ってたな」って思い出したいですね。そんな未来に感じるであろう思いも楽しみにしていますね。それに、芸能界にいと貴重な機会に巡り会うことができます。そういった時のことも忘れないように、日記帳の代わりにしても大切にしていきたいです。日記って、毎日わざわざ書き記さないといけないからなかなか続かないけれど、写真だとシャッターを押すだけで日常を切りとれて、パッと見てそのときに何があったのかがわかるから、より手軽なイメージですよ。日々慌ただしくて、目先の事に一生懸命になるほど、つい最近の思い出さえも忘れがちになります。忘れないように努力してみても、頭のメモリがいっぱいになって、結局一回リセットせずにはいられなくなる。そうなるともやもやした気分になってしまうんです。でも写真を撮っておけば、その瞬間を残したという安心感を得つつ、あとからもう一回その時の感覚を取り戻せると思うんです。

写真とのこれからの向き合い方についてお聞かせください。

今まで自分が写真を通して得られたものを、これからの自分に対しても与え続けたいと思います。将来もし結婚して自分の家族ができたなら、撮ってきた写真を見せてあげて、「この時はこうだったんだよ」っていう話を沢山してあげたいので、まだ見ぬ家族のためにも写真はこれからもずっと撮り続けていきたいですね。

これからの写真とご活躍も楽しみにしています！ありがとうございました。



[> コンテンツトップへ戻る](#)

※掲載している情報は、コンテンツ公開当時のものです。